

# 国内出向職員



新しい省庁での  
充実した試行錯誤の日々

## デジタル庁 参事官付 主査

### 澤 美帆

平成30年入庁。国税庁企画課、財務省主税局調査課、熱田税務署法人課税部門国税調査官、内閣官房番号制度推進室室員を経て、令和3年から現職。

#### デジタル庁での仕事

私は、国税庁のある霞が関からは少し離れた紀尾井町にあるデジタル庁のデジタル社会共通機能グループで、マイナンバー制度の利用拡大の検討のとりまとめ等を担当しています。マイナンバー制度は、行政手続等

における特定の個人を識別するための制度です。現在、税、社会保障、災害の3分野のうち、法律等で定められた事務手続において使用されていますが、マイナンバーは、行政の効率化と国民の利便性向上、公平・公正な社会を実現するデジタル社会の基盤となります。そのためデジタル化が進む今の社会情勢の中、マイナンバー制度の利活用の推進が重要になってきています。検討にあたっては内部の職員のみならず、地方自治体や有識者の方といった様々な業界の方に意見を頂戴する面が多々あり、学びが非常に多く勉強の毎日です。

#### 新しい省庁での経験

デジタル社会の推進が注目された2021年9月にデジタル庁は発足しました。入庁以来、国税庁や財務省での勤務や、税務署で税務調査といった様々な業務を経験してきましたが、新しい行政機関の立ち上げに立ち会い、様々なバックグラウンドを持つ職員の方々と業務に取り組んでいく経験は、今後の長いキャリアの中でも減多にないものだと思います。日々試行錯誤の積み重ねですが、デジタル庁が掲げるGovernment as a Startup、スタートアップさながらのスピード感や柔軟性を今後の勤務にも活かしていくことができるよう私自身成長していきたいです。



02

多様なフィールド



広いフィールドで  
成長を実感する

## 内閣官房副長官補室 主査

### 吉崎 藍子

平成29年入庁。国税庁課税総括課、財務省主税局調査課、小倉税務署法人課税部門国税調査官を経て、令和2年から現職。

#### 内閣官房副長官補室とは？

私は現在、内閣官房副長官補室（通称「ホシツ」）に出向しています。皆さんには馴染みが薄いかもかもしれませんので、簡単に説明しますと、内閣官房副長官補のもとにあらゆる省庁から出向者が集まり、出身省庁の垣根を越えて、内政上の重要課題に丸となって取り組む組織です。

一昨年に着任して以来、主に新型コロナウイルス感染症への対応を

行っています。日々生じる新たな課題は、前例のないものばかりですが、様々な省庁の出向者と議論を重ねながら政策を前に進めていくことにやりがいを感じています。

#### 出向の魅力

現職に就く前にも、税制を企画・立案する財務省主税局や、税務行政の最前線である税務署への出向の機会に恵まれました。

国税庁の外に出て、多様なバックグラウンドを持つ方々と議論を交わす中で、行政官として物事の見方や考え方を広げることができ、日々成長を実感しています。

仕事上の判断にあたっては、関係者と調整を行い、皆が納得する結論を導き出す必要がありますので、多様な価値観に触れ、判断に際しての自分の「ものさし」を磨くことができる点が出向の魅力だと感じています。

国税庁には、上記の他にも、国際機関や地方自治体への出向など、税の世界で専門性を高めながら、行政官として成長できる様々な機会が用意されています。この広いフィールドで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



変わらない使命と  
変わる社会への対応

## 金融庁 企業開示課 課長補佐

### 丸山 友理

平成27年入庁。国税庁国際業務課、留学（ノースウェスタン大学大学院）、国税庁課税総括課企画係長、財務省主税局調査課外国調査第二係長などを経て、令和3年から現職。

#### 社会の変化に対応する企業情報開示

現在、金融庁において企業情報の開示に関する制度（ディスクロージャー制度）に係る国際的な対応に取り組んでいます。企業情報開示の役割は、投資家の投資判断に必要な情報を提供するとともに、企業と投資家との間の建設的な対話を通じて企業の中長期的な成長を促すことであり、ひいては金融市場の機能や魅力の向上に繋がる重要なものです。

近年、地球温暖化の影響を受けて、企業経営におけるサステナビリ

ティが重視されるようになり、企業の財務情報等に加え、気候変動への対応などサステナビリティに係る情報の開示への需要が高まっています。こうした中、サステナビリティ開示についての国際的なルールを策定する動きが加速しており、私の今の主な仕事は、国際的なルール作りに係る議論において、日本からの意見を発信することです。オンラインでの国際会議は深夜に及ぶことが多く大変な面もありますが、新たな局面を迎えている企業情報開示の業務に最前線で携われることを、とても幸運に感じています。

#### 出向して感じた国税庁の魅力

国税庁で働くことの魅力は、その役割の重要性、独自性が高いことだと思います。地球温暖化やデジタル化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、経済や社会が急激に変化し将来の不確実性が高まる中でも、国税庁の仕事は日本の財政の根幹をなす税収の確保という、いつの時代も変わらない重要なものであり、唯一無二の使命を担っています。

他方で、行政は経済や社会の変化に対応していく必要があり、そのためには広い視野と柔軟性を持って、常により良い行政の在り方を考えることが不可欠です。私がこれまで経験してきた他省庁への出向や海外大学院への留学、国税局や税務署での勤務等、国税庁には視野や知識を広げるための様々なチャンスが用意されているのも大きな魅力です。

日本を根底から支える仕事がかっこいいという思い、好奇心を持って新たなことにチャレンジしたいという思いを持つ皆さんに、ぜひ国税庁の門を叩いていただきたいと思います。

